

## 聖徳太子の

# 富士登山

山に神に教えを請うた

平成八年十月五日号

聖徳太子が摂政の頃、良い馬を献上させた話は有名です。多くの馬の中で、すばらしい馬が一頭いました。

太子は大層喜び大切に飼わせました。その年の秋、調教ができたので試し乗りをしました。太子がまたがり、手綱を引きムチを当てると、馬はすごい勢いで飛び出し、東の空へ飛んでいきました。アツ、と驚いた宮人たちは、顔色を変えて騒ぎだしましたが、どうしようもありません。

ところが三日目の朝、太子はひよっこり帰

り「とても愉快だった。空へ飛び上がって、雲の中をしばらく飛んだと思ったら、富士山の頂上だったよ。富士山を見物して帰ってきた」とおもしろそうに話しました。



御殿へ上った太子は、富士山の出来事を詳しく話しました。

「頂上におけると大きな岩穴があった。この穴を進むと金色に輝く岩が並び、金銀でつくられた美しい門があった。さらに進み、奥の院らしい境内へ入ると両眼をぎらぎらさせ、剣のような舌をだし、口から火を噴いている大蛇がとぐるを巻いていた。」

私はこれが山の神だと思い、ひざまずいて『人民のためにどのような政治をしたらよいか教えてもらいたい』とお願ひした。すると大蛇は、大日如来の姿に変わり、『和をもって貴しとなし、あつく三宝をうやまい、礼をもって本とせよ』とおおせられた。私は必ず教えに従うことを約束して、再び馬に乗って帰ってきた」と一同に話しました。